

平成 31 年度 長崎大学 2 次試験後期日程 (数学問題)
工学部 平成 31 年 3 月 12 日

1 x 軸と y 軸からなる直交座標平面上に原点 O を中心とする半径 R の円がある. x 軸上の点 A から円に接線を引き, 第一象限にある地点を B とする. 点 A の座標を $(H, 0)$ (ただし, $H > R$), 点 B の座標を (x_B, y_B) とする. また, $\angle AOB = \theta$ とする.

- (1) 直線 OB の式を, θ を用いて表せ.
- (2) 直線 AB の式を, θ と H を用いて表せ.
- (3) x_B および y_B を, それぞれ θ と H を用いて表せ.
- (4) $\theta = 15^\circ$ のとき, $2x_B - H$ を, H を用いて表せ.

2 円周率を使用する場合は π で表記してよい.

- (1) 定積分 $\int_0^1 \frac{dx}{3+x^2}$ の値を求めよ.
- (2) 関数 $f(x) = x^2 \log \frac{1}{x}$ について, 関数 $f(x)$ の極値と, そのときの x の値を求めよ.
- (3) t は $t \geq 1$ を満たす実数とする. 曲線 $y = \frac{1}{\sqrt{x}}$ と 2 つの直線 $x = 1$, $x = \sqrt{2}te^{\frac{t^2}{4}}$ と, x 軸で囲まれる図形を, x 軸のまわりに回転してできる回転体の体積を $V(t)$ とする. $\frac{dV}{dt}$ が最小となる t の値を求め, そのときの $V(t)$ の値を求めよ.

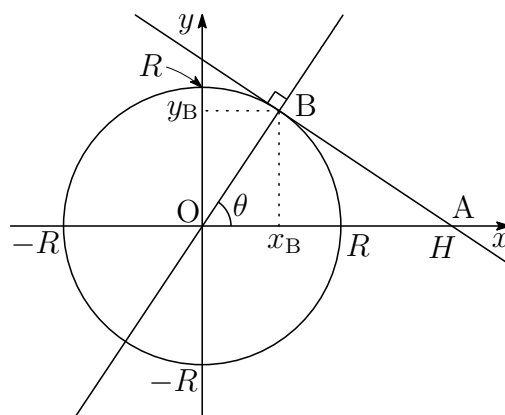
解答例

- 1 (1) 直線 OB は原点 O を通る傾き $\tan \theta$ の直線であるから

$$y = x \tan \theta$$

- (2) 直線 AB は、点 A(H, 0) を通る傾き $-\frac{1}{\tan \theta}$ の直線であるから

$$y = -\frac{1}{\tan \theta}(x - H)$$



- (3) 直線 OB と AB の方程式から y を消去すると

$$x \tan \theta = -\frac{1}{\tan \theta}(x - H) \quad \text{ゆえに} \quad (1 + \tan^2 \theta)x = H$$

$$1 + \tan^2 \theta = \frac{1}{\cos^2 \theta} \quad \text{より} \quad \frac{x}{\cos^2 \theta} = H \quad \text{ゆえに} \quad x = H \cos^2 \theta$$

これを方程式 OB の方程式に代入すると

$$y = H \cos^2 \theta \tan \theta = H \sin \theta \cos \theta = \frac{H}{2} \sin 2\theta$$

$$\text{よって} \quad x_B = H \cos^2 \theta, \quad y_B = \frac{H}{2} \sin 2\theta$$

- (4) (3) の結果から $2x_B - H = 2H \cos^2 \theta - H = H(2 \cos^2 \theta - 1) = H \cos 2\theta$

$$\theta = 15^\circ \text{ のとき} \quad 2x_B - H = H \cos 30^\circ = \frac{\sqrt{3}}{2} H$$

2 (1) 定積分 $\int_0^1 \frac{dx}{3+x^2}$ において, $x = \sqrt{3} \tan \theta$ とおくと

$$\begin{array}{c|c} x & 0 \longrightarrow 1 \\ \hline \theta & 0 \longrightarrow \frac{\pi}{6} \end{array} \quad \frac{dx}{d\theta} = \frac{\sqrt{3}}{\cos^2 \theta}$$

$$\int_0^1 \frac{dx}{3+x^2} = \int_0^{\frac{\pi}{6}} \frac{1}{3 + (\sqrt{3} \tan \theta)^2} \cdot \frac{\sqrt{3}}{\cos^2 \theta} d\theta = \frac{1}{\sqrt{3}} \int_0^{\frac{\pi}{6}} d\theta = \frac{\pi}{6\sqrt{3}}$$

(2) $f(x) = x^2 \log \frac{1}{x} = -x^2 \log x$ より

$$f'(x) = -2x \log x - x^2 \cdot \frac{1}{x} = -x(2 \log x + 1)$$

x	(0)	...	$\frac{1}{\sqrt{e}}$...
$f'(x)$		+	0	-
$f(x)$		\nearrow	$\frac{1}{2e}$	\searrow

よって, $x = \frac{1}{\sqrt{e}}$ のとき, 極大値 $\frac{1}{2e}$ をとる.

(3) $t \geq 1$ より, $1 \leq \sqrt{2te} \frac{t^2}{4}$ に注意して

$$V(t) = \pi \int_1^{\sqrt{2te} \frac{t^2}{4}} \left(\frac{1}{\sqrt{x}} \right)^2 dx = \pi \left[\log x \right]_1^{\sqrt{2te} \frac{t^2}{4}} = \pi \left(\log \sqrt{2t} + \frac{t^2}{4} \right)$$

これを t について微分すると

$$V'(t) = \pi \left(\frac{1}{t} + \frac{t}{2} \right)$$

$\frac{1}{t} > 0$, $\frac{t}{2} > 0$ であるから, 相加平均・相乗平均の大小関係により

$$\frac{1}{t} + \frac{t}{2} \geq 2\sqrt{\frac{1}{t} \cdot \frac{t}{2}} = \sqrt{2}$$

上式において, 等号が成立するとき

$$\frac{1}{t} = \frac{t}{2} \quad \text{すなわち} \quad t = \sqrt{2}$$

したがって, $t = \sqrt{2}$ のとき $\frac{dV}{dt}$ は最小となり, そのとき

$$V(\sqrt{2}) = \pi \left(\log 2 + \frac{1}{2} \right)$$